

# 地方創生推進交付金事業 評価・検証シート 【令和6年度実施分】

《内部評価》（100点満点） 個別項目についてそれぞれ評価しています。

|              | 評価項目        | A (13点)  | B (9点)   | C (5点)    | D (1点)   |
|--------------|-------------|----------|----------|-----------|----------|
| 有効性<br>(26点) | KPI 達成への貢献度 | 最も効果的である | 概ね効果的である | やや効果的ではない | 効果を見込めない |
|              | 総合戦略への貢献度   |          |          |           |          |

|              | 評価項目       | A (14点)  | B (10点)  | C (6点)    | D (1点)  |
|--------------|------------|----------|----------|-----------|---------|
| 有効性<br>(14点) | 期待した効果の達成度 | 最も有効的である | 概ね有効的である | やや有効的ではない | 有効的ではない |

|              | 評価項目         | A (10点)  | B (6点)   | C (3点)    | D (1点)   |
|--------------|--------------|----------|----------|-----------|----------|
| 効率性<br>(30点) | コスト効率        | 最も効率的である | 概ね効率的である | やや効率的ではない | 効率的ではない  |
|              | 手段の最適性       | 最適の方法である | 概ね適切である  | やや適切ではない  | 適切ではない   |
|              | 受益者負担は適切か    | 最適の方法である | 概ね適切である  | やや適切ではない  | 適切ではない   |
| 持続性<br>(30点) | 必要な体制は整っているか | 大いに認められる | 概ね認められる  | やや認められない  | 全く認められない |
|              | 必要な技術はあるか    | 大いに認められる | 概ね認められる  | やや認められない  | 全く認められない |
|              | 必要な財源の見通し    | 大いに認められる | 概ね認められる  | やや認められない  | 全く認められない |

《総合評価》 個別項目の合計点により、総合評価をしています。

|   | 得点率    | 得点      | 目安となる考え方        |
|---|--------|---------|-----------------|
| A | 80%以上  | 80点以上   | 計画通りの実施が適当      |
| B | 79~50% | 79点~50点 | 一部見直しで足りる程度     |
| C | 49~20% | 49点~20点 | 見直すべき項目がある      |
| D | 19%以下  | 19点以下   | 事業の統合、廃止等の検討が必要 |

令和6年度事業額：6,745,200円（総事業費21,075,820円）

交付金充当額（補助率1/2）：3,372,600円（総交付額：10,500,460円）

評価対象期間：令和6年度（事業実施期間：令和4年度～令和6年度）

## 《事業の概要》

・いつまでも住み続けたいと思えるには、安心して暮らすことができるまちづくりを行うことが必要である。地方創生が目指すものの1つである、「安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」を実現し、市民生活の安全や安心を維持することができるよう、市民の生命を守り、誰一人取り残すことなくいつまでも安心して暮らすことができるまちを目指す。そのため、市民の健康増進を図ることで、いつまでも健康的に暮らすことができるとともに、環境面における負荷を減らすことで持続可能な社会を実現する。

### 【健康増進】

「ウォーキング」に焦点を当て、官民共同で組織的に取り組むことで、継続的・組織的な取組へ構造改革し、地域の健康習慣の定着を目指す。

### 【環境負荷の低減】

食品ロスの削減により、まちの持続可能性を高めるとともに、新型コロナウイルス感染予防措置などにより疲弊する地域経済を、人口構造の変化や新しい生活様式に対応していく事により活性化することで、暮らしやすい地域づくりをIT活用により目指す。

## 《事業の進捗状況》※主な事業を記載



### 《ウォーキングマップ作成、配布》 所管：健康推進課

市内8小学校区で、楽しく安全に歩けるウォーキングコースを設定し、ウォーキングマップを作成し、全戸配布した。「あいち健康プラス」アプリにもウォーキングコースを掲載し、紙媒体がなくてもマップを見ることができるようにした。



### 《「歩くとイイ!! DAY」の開催》 所管：健康推進課

市内8小学校区で、コミュニティ推進協議会と協働して「歩くとイイ!! DAY」を開催した。コミュニティの要望に合わせて、まち歩きと楽しく体を動かすレクリエーションを組み合わせて実施した。こどもから高齢者まで、多くの市民に参加いただけ、参加者からは、「地域を知ることができた」、「世代間での交流ができた」など、健康づくりとともに、地域の活性化にも資することができた。



《食品ロス削減マッチングサービス「タベスケ」運用》 所管：生活環境課  
 食品ロス削減の啓発の一環として、規格外品、消費（賞味）期限が近い食品などを安価で出品、購入予約できる専用ウェブサイト「もったいない津島 by タベスケ」を運用した。令和6年2月にウェブサービスに加え、アプリでの利用が可能となった。

その他事業について

|   | 事業名                        | 概要  |
|---|----------------------------|---|
| 1 | これってステップ?! 作戦会議 (6/2、7/28) | 各小学校区で開催する「歩くとイイ!! DAY」において、まち歩きの楽しみ方やレクリエーションの実施方法についてアイデアを出し合い検討した。 |
| 2 | ふりかえりワークショップ (12/15)       | 「歩くとイイ!! DAY」開催後に、関係した団体とともに、イベントの振り返り、今後に向けての意見交換を行った。               |

《KPIの状況》

|      | 指標名                     | 基準値<br>(現状値) | 中間<br>目標値 |       | 最終<br>目標値 | 累計     | 最終目標値の実施状況<br>に関する評価  |
|------|-------------------------|--------------|-----------|-------|-----------|--------|---|
|      |                         | 2021         | 2022      | 2023  | 2024      |        |   |
| 指標 1 | 「あいち健康プラス」アプリ登録者増加数 (人) | 221          | 100       | 200   | 300       | 600    | 3年目は目標値を下回ったが、3年間の累計では目標を上回った。「歩くとイイ!! DAY」において、紙媒体での実施が、アプリ登録者の伸び悩みを生んだと考える。 |
|      |                         | 実績値          | 390       | 200   | 200       | 790    |   |
| 指標 2 | 食品ロス削減量 (kg)            | 0            | 400       | 5,000 | 6,000     | 11,400 | 目標値に至っていない結果となったが、食品ロス問題の啓発に役立った。   |
|      |                         | 実績値          | 5         | 21    | 7         | 33     |   |

《成果》※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

「健康増進」については、楽しく体を動かすことを運動習慣につなげることを目標に、ウォーキングマップ作成・全戸配布と楽しく体を動かすレクリエーションを組み合わせ、全ての小学校区において「歩くとイイ!! DAY」を開催した。参加者には楽しく体を動かすことの大切さや健康づくりの多様性を浸透させることができたと考える。「あいち健康プラス」アプリにウォーキングコースを掲載することで、健康習慣としてウォーキングを活かすことができた。

「環境負荷の低減」については、「タベスケ」の周知活動を通じ、市内の飲食・食料品店や市民に向け、食品ロス削減への意識を醸成・啓発することができた。また、令和6年1月からプッシュ式で資源やごみの分別方法・収集日をお知らせする多言語対応の資源・ごみ分別啓発アプリ「さんあ〜る」を導入することで、外国人の方も含めた資源・ごみ分別の啓発活動を推進しており、アプリの利用者は増加している。

《事業の課題》※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

「健康増進」については、「歩くとイイ！！DAY」をきっかけとして、参加した市民には楽しく体を動かすことの大切さや健康づくりを周知することはできたが、多くの市民が日々の生活の中で独自に健康づくりに取り組むようになっていくためにも、アプリをもっと身近なものとして活用していってもらえるようにならないといけない。

「環境負荷の低減」については、「タベスケ」を店舗に利用していただけるように情報提供を行っていく。

《内部評価》

|              | 評価項目         | 評価 | 評価について  | 総合評価 |
|--------------|--------------|----|---|------|
| 有効性<br>(40点) | KPI達成への貢献度   | A  | 市民に楽しく体を動かすことが健康につながることを知っていただき、健康な地域づくりを進めることで、総合戦略やKPIに貢献している。<br>食品ロス全体に占める販売しうる商品の割合は数%程度であり、直接的な成果は得にくいですが、PR効果による食品ロス低減効果はあると考えている。 | A    |
|              | 総合戦略への貢献度    | B  |   |      |
|              | 期待した効果の達成度   | B  |   |      |
| 効率性<br>(30点) | コスト効率        | B  | 市内全域で健康づくりの取り組みを行うことができた。<br>「タベスケ」は、店舗の登録料、出品料及び利用者の登録料は無料であり、利用者としては、お得に商品を購入でき、食品ロス削減にも貢献できるメリットがある。                                   |      |
|              | 手段の最適性       | B  |   |      |
|              | 受益者負担は適切か    | B  |   |      |
| 持続性<br>(30点) | 必要な体制は整っているか | A  | 市内全域で健康づくりの取り組みを行うことができ、コミュニティとの関係性を構築することはできた。<br>「タベスケ」については、令和6年2月にウェブサービスに加え、アプリでの利用が可能となり、必要な体制・技術が整った。                              |      |
|              | 必要な技術はあるか    | A  |   |      |
|              | 必要な財源の見通し    | A  |   |      |

《今後の展開》

「健康増進」については、歩くことや楽しく体を動かすことが健康につながることを、多くの方に知っていただき、地域が主体的に取り組む、持続的な活動とするために、市民や地域、事業所を巻き込み、「いつまでも健康で暮らす都市、つしま」を目指していく。

「環境負荷の低減」については、10月の食品ロス啓発月間などにあわせ、食品廃棄物量の多い飲食店・食料品店を中心に「タベスケ」の利用を推奨していく。

担当部局： こども健康部 / 担当課： 健康推進課  
市民生活部 生活環境課

## 令和6年度 地方創生推進交付金事業

# 官民連携による津島天王通り・ウォーカーブルストリートプロジェクト

令和6年度事業額：16,687,000円（総事業費49,649,000円）

交付金充当額（補助率1/2）：8,343,000円（総交付額：24,824,000円）

評価対象期間：令和6年度（事業実施期間：令和5年度～令和7年度）

### 《事業の概要》

本市は、全国の天王信仰の総本社で重要文化財にも指定されている津島神社があり、そこから名鉄津島駅は約1kmの「天王通り」で結ばれている。お寺等の歴史的資源に溢れており、現在も「尾張津島天王祭」を始めとしたイベント等では、市内外から年間20万人以上の人々が訪れ、今も昔も変わらず、天王通り周辺は多くの人で賑わう。しかしながら、日常における天王通りは、人口減少や高齢化の進行、後継者不足などにより空き家や空き店舗が増加しており、昼間でもシャッターが下りた店舗が目立ち、通りを行き交う人の姿は少ない。

本市の総合戦略では、若者や女性がやりがいを持ち、安定した生活を送ることができる雇用の場の創出や起業しやすい環境を整備するとともに、快適で利便性の高い居住環境を整備し、働きながら住み続けられる環境づくりを進めていくこと、及び歴史・文化資源だけでなく、地域の農産品や工業製品、景観、ひと、まちでの暮らし方・働き方などの多様な地域資源を活用してまちの魅力を発信するとともに、交流人口や継続的に地域にかかわる関係人口の創出・拡大などに取り組むことでまちの活力を高め、人の流れを作ることを目指している。

そのための施策として「地域産業の活性化」「駅周辺の活性化」「魅力の発信と関係・交流人口の拡大」等を掲げ、「つまちあるきキャンペーン事業」「津島駅周辺まちづくり事業」その他の事業を総合戦略の一部として位置付けている。本事業では、後述する空き家・空き店舗の利活用及びリノベーション、賑わい創出事業、アンテナショップ事業等、天王通りにおける多角的アプローチによる日常的な賑わいの創出を目指す。

### 《事業の進捗状況》※主な事業を記載

②



《空き家・空き店舗・リノベーション事業》 所管：観光・プロモーション課

①空き家・空き店舗等の継続的な情報収集

昨年度実施した空き家等所有者アンケート（回収数32件）の結果も踏まえ、空き家・空き店舗の賃借交渉及び出店希望者の継続的な情報収集を行った。

空き家ストック数/13件 交渉中/5件 出店希望者/9名

③



②空き家物件及び活用事例見学会の実施

天王通り周辺の空き物件への出店を促進するため、出店を希望する方を対象とした空き物件及び実際に営業している店舗を巡る見学会を2回（R6.11、R7.3）開催し、合わせて15名が参加した

③空き家・空き店舗のリノベーション支援

空き家・空き店舗3件における概略設計、概算費用算出を行い、資金計画などの作成支援を実施した。

### 《賑わい創出事業》 所管：観光・プロモーション課

①



#### ①空き店舗を利用したイベントの開催（イベント名称：お魅せびらき）

天王通りの空き家・空き店舗を活用し賑わいを創出する事業として、地元の津島北高等学校と協力し、お正月の遊びを楽しむことができる「お魅せびらき」を2日間（R7.1.11・12）開催し、100名を超える参加があった。（計140名）

これにより、空き店舗所有者には、今後の店舗活用のあり方を具体的なイメージとして描いていただくことができた。

②



#### ②シャッターアートの実施

天王通りの空き家・空き店舗を活用し賑わいを創出する事業として、地元の津島北高校、津島市在住の大学生の参加により、空き店舗（天王通り6丁目）のシャッターに、津島が誇る地域資源、藤や天王祭等のアートを描き、地域住民の力で天王通りに新たな装いを加えた。

### 《ICT利活用事業》 所管：観光・プロモーション課

①



#### ①人流データの分析

今後の天王通りのあり方を検討する上での基礎資料として、天王通りエリアの人流を可視化するとともに、来街者の居住地、年代、性別等を細かく分析できる人流マーケティングツール「マチレポ」（出典：株式会社Agoop）を活用し、人流データの分析を行い、地元商店街との情報共有を実現。

②



#### ②フリーWi-Fiの設置

天王通り4丁目及び本町2丁目の2カ所に無線LANアクセスポイント（フリーWi-Fi）を設置し、市外からの訪問者が店舗や名産品、名所等の検索がスムーズに行えるよう、スマートフォンのアクセス環境を整備し利便性の向上を図った。（利用者延数22,362人）

### 《アンテナショップ事業》 所管：観光・プロモーション課



大都市名古屋の中心部である栄の繁華街において、UR都市機構の多目的PRスペース（名古屋市栄地下街）を利用し、アンテナショップを2回（6月（6日間）、11月（7日間））開設し、ふるさと納税返礼品や名産品の展示・販売、地酒の試飲、シルクスクリーン（印刷）体験コーナー及び観音寺副住職による水墨画のライブイベントを実施し、来場者延べ数約8千人（AIカメラによる計測）、売上約51万円となり、当市の魅力を広く発信することができた。

## 《空き家・空き店舗等情報プラットフォームの設立》

所管：観光・プロモーション課

①



### ①参考事例の整理

プラットフォームが今後目指す拠点形成の一例として、NPO 法人尾道空き家再生プロジェクトが運営している「尾道 複合空間「あなごのねどこ」」で名高い、広島県尾道市の事例を整理した。

＜尾道 複合空間「あなごのねどこ」＞

ドミトリー形式（相部屋）のゲストハウスや交流スペースなどが一緒になった複合再生区間であり、空き家再生の先進事例。

②



### ②「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」を設立

令和 7 年 3 月 18 日、歴史ある町家建築が数多く残っている名鉄津島駅から津島神社までの天王通り周辺エリアに点在する空き家、空き店舗等の情報と課題を共有することにより、利活用を促進し、魅力ある個店を創出することを目的とした「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」を設立した。

＜設立時メンバー＞

一般社団法人津島小商い創出支援機構、地元不動産業者、建築士、津島市商店街連合会、津島市

## 《KPI の計測》 所管：観光・プロモーション課

①



### ①天王通り周辺歩行者通行量調査

日常の天王通り周辺の来街者数を把握するための基礎資料として、天王通りの歩行者・自転車通行量の測定（測定日時：R7.3.27（木）7時～19時）を実施した。※測定点：◎

### ②天王通り周辺賑わい実感度調査

天王通り周辺エリアのにぎわいの実感度を把握するため、当エリアの事業者 31 件を対象に聞き取り調査（ヒアリング）を実施した。

## ≪KPI の状況≫

|      | 指標名                         | 基準値<br>(現状値) | 中間<br>目標値 |      | 最終<br>目標値 | 累計    | 最終目標値の実施状況<br>に関する評価   |
|------|-----------------------------|--------------|-----------|------|-----------|-------|--|
|      |                             | 2022         | 2023      | 2024 | 2025      |       |  |
| 指標 1 | エリアへの新規出店店舗数<br>(店)         | 0            | 0         | 2    | 4         | 6     | 空き家物件及び活用事例見学会を2回開催したことにより、参加者の出店意欲は高まりを見せている。<br>出店に向けた交渉も複数行われており、うち1件については、令和7年度の出店実現に向けて大きく進捗した。 |
|      | 実績値                         |              | 0         | 0    |           |       |  |
| 指標 2 | エリアの来街者数 (人)                | 300          | 500       | 750  | 1,000     | 2,250 | すべてのイベントが終了した平日12時間合計。<br>基準値を大きく上回る結果となっており、来街者数は着実に増加している。   |
|      | 実績値                         |              | 359       | 371  |           |       |  |
| 指標 3 | エリアが賑わってきていると回答した事業者の割合 (%) | 0            | 5         | 10   | 20        | 35    | すべてのイベント終了後に、事業者への「にぎわい実感度」を聞き取りした。<br>既に、2年連続で目標値を大幅に上回っており、周辺エリアの事業者も賑わいを実感している。                   |
|      | 実績値                         |              | 15        | 16   |           |       |  |

## ≪成果≫ ※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

空き家物件及び活用事例見学会により、参加者の出店意欲が高まっている。

この機運を更に高めるため、空き店舗等の情報と課題を共有することにより、利活用を促進し、魅力ある個店を創出することを目的とした「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」の設立ができた。

本プラットフォームが概略設計・概算費用算出、資金計画などの出店に係る支援をすることにより、出店希望者と空き家・空き店舗のマッチングが加速的に進捗していく段階に至った。

また、天王通りにおいて、地元の津島北高等学校、津島市在住の大学生の熱心な協力により、空き店舗を利用したイベント「お魅せびらき」や津島にまつわるアートを描いた「シャッターアート」を開催することができ、地域が一体となった取り組みができた。

すべてのイベント終了後に天王通り周辺エリア事業者に対して実施した聞き取り調査では、「エリアが賑わってきている」と実感しているとの回答が目標値を大きく上回る結果となった。

《事業の課題》※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

天王通りを中心とした周辺エリアに日常的な賑わいを創出するためには、来街者が寄ってみたいくなる店舗が増え、新しくできた店舗や魅力ある既存店を広く周知することを目的とした定期的なイベントの開催が効果的である。

その実施にあたっては、現在、天王通り2丁目において進行中の「(仮称)シビックプライド醸成拠点」が大きな役割を担うこととなる。

オープンを目前に控えた「(仮称)シビックプライド醸成拠点」は、出会いと体験を通じて地域に対する愛着や誇りの醸成とマチナカの賑わいに繋がる多様な交流と活動を生み出す場であり、隣接する観光交流センターと本施設を繋ぐ、パティオ(中庭)においては、オープン後は年間を通じたイベントが創出され、住民の交流、来訪した観光客の周遊による地域の活性化が実現することとなる。

「(仮称)シビックプライド醸成拠点」の供用開始に伴い、賑わいをみせる天王通りエリアへの新店舗出店を後押しするため、一般社団法人津島小商い創出支援機構、地元不動産業者や建築士等により本年度設立された「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」がその役割を十分発揮できるよう、官民一体で賑わい創出に向けた事業を実施していく必要がある。

《内部評価》

|              | 評価項目         | 評価 | 評価について   | 総合評価 |   |   |
|--------------|--------------|----|--|------|---|---|
| 有効性<br>(40点) | KPI達成への貢献度   | B  | 「まちの活力を高め、人の流れをつくる」という総合戦略のもと、天王通り周辺のエリア活性化に向けて非常に効果的な事業である。また、津島駅周辺まちづくり構想により取り組んでいる、他施策との相乗効果が大きく期待できる。  | A    |   |   |
|              | 総合戦略への貢献度    | A  |  |      |   |   |
|              | 期待した効果の達成度   | A  |  |      |   |   |
| 効率性<br>(30点) | コスト効率        | B  | 本事業は、空き家・空き店舗の利活用及びリノベーション、賑わい創出事業、アンテナショップ事業等、計5事業の多角的アプローチにより日常的な賑わいの創出を目指す事業であり、KPI指標の目標値を上回る結果もあったことから、手段及びコストは最適である。  |      | A |   |
|              | 手段の最適性       | A  |  |      |   |   |
|              | 受益者負担は適切か    | B  |  |      |   |   |
| 持続性<br>(30点) | 必要な体制は整っているか | A  | 一般社団法人津島小商い創出支援機構、地元不動産業者や建築士等により設立された「天王通り周辺エリア空き家・空き店舗等情報プラットフォーム」は、3年間の地方創生事業終了後も情報と課題を共有し、魅力ある個店の創出を継続することとなる。<br>プラットフォームを通じた新店舗出店を更に加速させるためにも、現行のリノベーション補助金の継続が必要。 |      |   | A |
|              | 必要な技術はあるか    | A  |  |      |   |   |
|              | 必要な財源の見通し    | B  |  |      |   |   |

## 《今後の展開》

本事業は、国のデジタル田園都市構想交付金（地方創生タイプ）を活用した令和5年度から令和7年度までの3カ年度事業であり、様々な事業による多角的アプローチにより、歴史ある町家建築が数多く残る天王通り周辺エリアに日常的な賑わいを取り戻すことを目的としている。

事業の対象エリアである、津島駅と津島神社を結ぶ天王通り周辺は、現在取組みを続けている「津島駅周辺まちづくり構想」における、「神社公園エリア」・「歴まちエリア」・「駅前エリア」内に位置している。

「まちづくり再生」に向けた各エリアでの取組みは、前例踏襲や従来のもちづくりに留まることなく、良いものを積極的に取入れることにより力強く推し進めている。

「神社公園エリア」では、当市が全国の市町村に先駆けて先進的に取組んだ天王川公園 Park-PFI 事業により「スターバックスコーヒー」が出店し大きな話題となった。更に同エリア内の津島神社南側の市有地では、創業100年以上の歴史があり、熱田神宮にも出店する名高い老舗「宮きしめん」が令和7年12月にオープン予定となっており、この地域は面目を大きく一新することとなる。

また、「歴まちエリア」においては、設計・建設・運営の一括方式、いわゆるDBO方式を導入し、丸善グループが管理・運営を行う「(仮称)シビックプライド醸成拠点」が間もなく完成する。

令和7年12月のパティオ（旧いちい信用金庫天王通支店と観光交流センターの2つの施設を繋ぐ中庭）の先行オープンを皮切りに、令和8年4月のグランドオープンに向け、市長、職員、事業者が一丸となり、設計プランのブラッシュアップ、最終的な詰めの作業に鋭意に取り組んでいる。

「(仮称)シビックプライド醸成拠点」は、出会いと体験を通じて、我々が街、津島に対する愛着や誇りの醸成と、マチナカの賑わいに繋がる多様な交流と活動を生み出すものであり、「未来につなぐ～住んでみたい 住んでよかったまち 津島」を一人一人の住民に肌で実感していただく一大拠点となる。現在、オープンに向けて、住民に永く親しまれ愛される「愛称」と「名称」を広く住民から募っているところである。

さらに、「駅前エリア」では、正面玄関の核である「津島駅」の再整備に向け、令和5年3月に津島市、名古屋鉄道株式会社、独立行政法人都市再生機構（UR 都市機構）の三者により、「まちづくりに関する包括連携協定書」を締結。この協定書は、県内で初めて鉄道会社と連携し締結したものであり、令和7年4月には、この協定書に基づき、飲食店や物販等の店舗誘致等を行い、津島駅を正面玄関にふさわしい賑わいのある空間に再整備していく「津島駅再整備基本計画」の策定に着手した。

今後は、津島駅周辺まちづくり構想による各種事業を推し進めることにより、「まちづくり再生」が日常的な賑わいを取り戻す大きな核となっていく。

最終年度となる令和7年度のウォークアブルストリート事業においては、空き家・空き店舗の見学会の実施、地元商店街の理解と協力による賑わいを創出するためのイベントの開催、補助金による新店舗出店支援や、令和6年度に設立したプラットフォームがその役割を十分に果たせるよう全力でサポートしていく。

当市は今、「まちづくり再生」に向けて大きく動き出している。第5次津島市総合計画において、重点戦略と位置付けた「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「まちの活力を高め、人の流れをつくる」ことを目指すべきまちの姿の一つとしており、前述した施策に加え、「つしまちあるきキャンペーン事業」や「津島てら・まち御縁結び」等の賑わい創出を目的とした様々な施策が「点」から「線」、そして「面」へと相互作用的に効果を表し、目指すまちの姿の実現につなげる。

